

2020年5月1日

2019年度の主な事業報告

社会福祉法人 ちいろば会

【理事会・評議員会】

1) 理事会

- ・2019年度第1回 定例理事会 2019年5月23日(木) 13:30~15:30
2018年度事業報告及び計算書類等の承認、任期満了に伴う次期役員候補者の件
2019年度定時評議員会の招集の決定の件、グループホーム「すみれ荘」の設計業者の選定の件
理事長ならびに業務執行理事の職務の遂行状況報告
- ・2019年度臨時(6月)理事会 2019年6月10日(月) 14:40~15:00
理事長ならびに業務執行理事の選定の件
- ・2019年臨時(7月)理事会 2019年7月8日(月)(理事会の決議があったとみなされた日)
公益事業の廃止とそれに伴う定款、経理規程の一部変更の件
正規職員ならびに短時間労働職員ならびに非正規職員の就業規則の一部を変更する件
- ・2019年度第2回 定例理事会 2019年11月21日(木) 13:30~15:05
2019年度上半期事業報告ならびに会計報告
理事長ならびに業務執行理事の職務の遂行状況報告
2020年度以降の本法人が実施する公益的取組の件
- ・2019年度第3回 定例理事会 2020年3月26日(木) 13:30~15:40
2019年度補正予算承認の件、2020年度事業計画及び予算の承認の件
正規職員給与規程改訂の件
理事長ならびに業務執行理事の職務の遂行状況報告

2) 評議員会

- ・2019年度 定時評議委員会 2019年6月10日(月) 13:30~14:30
2018年度事業報告、2018年度計算書類・財産目録の承認の件、理事6名、監事2名選任の件
- ・2019年度臨時(7月)評議員会 2019年7月16日(火)
(評議員会の決議があったものとみなされた日)
公益事業の廃止に伴い、定款を変更する件

【年度目標】

「利用者主体の事業所をめざす!」 —利用者がより活躍できる場—

1. 呼称の改善 ~さんをスタンダードに
2. 職員の役割の転換
3. 職員の立ち振る舞いの改善
4. 利用者による職員評価の導入
5. 利用者の表現の場を増やす

評価: 利用者の自治会組織の設立を呼びかけ利用者から7名の立候補があり、「みんなの会」が設

立した。毎週の定例会に加え、他法人の当事者会との交流等を行い、利用者のみなさんからの主体的な意見表明もみられるようになり、利用者の意識改革は一定進んだように思われる。

1月には、食堂に大型レビを設置し全体終礼等において、視聴覚による情報提供が可能になり、利用者への情報提供における合理的配慮の一助となっている。

職員の支援内容の改善については、未だ、利用者への過度な介入や指導的な介入が多くみられるうえ、呼称についても改善のない職員も存在している。

当事者主体の事業所を実現するためには、職員の意識改革を進めるとともに、支援の知識や技術を向上させる取組みに併せて、改善の目的と達成のイメージを職員間で共有できるよう議論を深める必要がある。

【事業報告】

社会福祉事業

1. 利用状況

<ちいろば園> (生活介護) 定員 58 名、年間稼働日数 247 日

① 利用者の状況

登録者数 54 名 (3 月末現在)

5 月末-1 名退所、6 月末-1 名退所、長期欠席 3 名

一日平均利用 49.5 名 前年比 -1.3 名、年間平均稼働率 85.3% 前年比 -2.2%

5 月、6 月それぞれ、家庭事情により入所施設へ入所されたため 2 名が退所。体調不良により 1 名、他事業所への通所開始により 1 名、家族の入院により 1 名の長期欠席が続いている。

このことをうけ、1 日あたりの平均利用者数、稼働率ともに 3 年連続で前年を下回り、事業収入も大幅に減少の結果となった。

② 作業活動

作業活動による年間売上 9,987,404 円 前年比 -5.7% (-600,355 円)

利用者平均工賃 6,705 円/月 前年比 -1,767 円 50 円/時 前年比 -9 円/時

下請け作業の減少と、2 月からコロナウィルス影響により三郷町からの受託事業が休止となったことから作業収益が昨年を下回る結果となり、利用者工賃も減少した。

コロナウィルスの影響によるものは別として、作業量、作業収益の状況を分析して作業活動の内容を一部見直す必要がある。

<ちいろば生活支援センター> (特定相談支援、障害児相談支援)

- ・昨年度末をもって福祉有償運送事業を終了した。
- ・計画相談については、管理者、相談支援専門員を業務執行理事が兼務しているため、本法人サービス利用者に限って実施している。

<にぬふぁ星> (共同生活援助) 定員 21 名、現員 19 名 (3 月末現在)

- ・にぬふぁ星 定員 6 名 — 現員 6 名
- ・エンゼルハウス 定員 5 名 — 現員 5 名
- ・ユイマール I 定員 2 名 — 現員 2 名

- ・ユイマールⅡ 定員 2 名 — 現員 1 名
- ・日之出荘 定員 6 名 — 現員 6 名 6 月末 1 名退居 10 月より 1 名入居

ユイマールⅡについては、昨年度末利用者の急死により 1 室空が発生したまま、新たな入居者がいない状況が継続しているが当年 4 月からあらたに 1 名が入居予定。

日之出荘については、6 月末に 1 名が退居のうえ入所施設へ入居され、10 月より新たに 1 名が入居した。

2. 事業運営の評価と課題

<ちいろば園>

利用者の親の高齢化により、急遽、入所施設へ入所するケースや親の体調不良により、長く通所できないケースも発生している。本人の意思とは別に親の都合が優先されてしまう現状への対応策を検討する必要がある。昨年度末より開始した入浴サービスについては、それぞれの利用目的に応じた支援が達成されつつあるが今後も継続する必要がある。

年度末には新型コロナウイルス対策により三郷町からの受託事業と三郷町文化センターの喫茶室の営業が休止に追い込まれ、就労支援売上が前年度を下回った。その他の内職仕事の受注も減少していることから、次年度に向けて作業活動の内容を一部見直すこととした。

感染症対策については、次亜塩素酸水による手指の消毒、手洗い、室内の加湿の励行により、ここ数年は施設内での感染は全く発生していない。次年度にむけては新型コロナウイルスへの対応を含め警戒を続けたい。

利用者数の減少に伴い事業収入の大幅な減収となったことから早急に利用者の増員を図る必要性が生じているものの、歴年数の高い職員による後任指導力が低迷していることや新任職員の定着率が低いことから利用者の増員が支援の質の低下に直結する恐れが高く、職員のスキルアップを図ったうえで、計画的に 2~3 年以内に 2~3 名程度の利用者の増員を実施したい。

<ちいろば生活支援センター>

現在、業務執行理事が特定相談事業の管理者と相談支援員を兼務しているが、適正な計画相談を実施できる職員が非常に限られていることから、しばらくは、現状を継続する必要があり、利用者の長期的、潜在的ニーズを引き出し、親なき後の支援に対応できる計画作成を担当できる知識と技術を備えた職員の育成が急務である。

<にぬふぁ星>

年間の会議や研修を通じて、利用者がより主体的に暮らす場へ改善するため、職員が無意識のうちに利用者の行動を制限するような言動を行っている現状を見直していくことを職員間で確認した。

しかし、一部の職員においては、職員の業務遂行の合理性や利用者の安全（利用者が自由に行動することへのリスク回避）を優先する考え方が根強く、会議での確認事項が実行されていない状況も見受けられる。今後は個別支援計画にできるだけ具体的な支援内容を記載して現状の支援内容を改善できるよう世話人から生活支援員へ働きかけることとした。そのためにも、世話人と生活支援員とのコミュニケーションの機会を増やし、支援内容と支援目標の達成のイメージを共有できるよう改善を図りたい。

【行事報告】

- ・映画会&講演会 2019年 6月 8日(土) 参加者：40名
「ある精肉店のはなし」 講師：奈良人権部落解放研究所所長 大平和幸氏
 - ・兄弟姉妹の会 2019年 8月 25日(土) 参加者：利用者兄弟姉妹2名
 - ・一泊旅行 淡路島で運動会 9月 5日(木)~6日(金) 参加者：利用者 45名、職員 21名
 - ・ちいろばまつり 2019年 9月 14日(土) 参加者：121名
 - ・ピープルファースト大会 in 大阪
2019年 11月 29日(金)~30日(土) 参加者：利用者 14名、職員 8名
 - ・クリスマスコンサート 2019年 12月 14日(土) 参加者：48名
 - ・クリスマス礼拝・パーティー 2019年 12月 23日(月) 参加者：利用者 49名、職員 16名
- 評価：・映画会は映画、講演ともに非常に意味深い内容で参加者にも好評であった。
・ちいろばまつりは30周年記念で抽選会の景品を充実させたことが参加者からの好評を得た。

【研修会等】

- ・初任者研修 2019年 5月 7日、8月 6日、11月 15日、2020年 3月 13日
- ・夏季法人研修 2019年 8月 10日
部落差別の現状と運動の課題
講師：部落解放同盟奈良県連合会 書記長 伊藤 満氏
- ・冬季法人研修 2020年 1月 23日
すべての人が尊重される地域社会をめざして
奈良県立同和問題史料センター現地研修
講師：奈良県立同和問題史料センター所長 奥本武裕氏
- ・春季法人研修 2020年 3月 7日
午前：法人内事業報告会
午後：質疑応答、その他報告と確認
- ・特別研修 2019年 12月 12日、2020年 2月 28日
コミュニケーションスキル研修
講師：労務コンサルティング R&L 井上基子氏
- ・毎月1回職員勉強会 ちいろば園：毎月最終木曜日 17:00~18:00
グループホーム：毎月第4金曜日 11:00~12:00
- ・その他 外部研修随時参加

評価：・昨年度から継続的に学んだ部落差別については、最後の同和問題史料センターにおいて、具体的な史料に基づく学びで身近な問題として捉えることができ、障害者差別との共通点も多くの職員が認識できた。

- ・初任者研修については対象となる職員の資質によって、評価にも大きな差が生じている。興味をもって入職した職員にとっては、有効な学びの機会となっているが、主体的に学ぶ気持ちはない職員の反応は薄い。
- ・春季研修については、個々の職員に質問票を配布した結果、多くの質問があり効果的な研修となった。

- ・毎月の勉強会については、障害者支援の基本的な内容を繰り返しているが、歴年数の長い職員でも、基本的な内容が理解できていないことが多い。職歴にかかわらず、今後は基本的な内容を繰り返し学ぶことで、個々の職員の基本的知識、技術の理解度を評価する機会とする。

【苦情申立、虐待報告と事故・ヒヤリ報告】

1. 苦情申立て

- ・利用者の親御さんからサービス内容に対する苦情 2件

内容：・ちいろば園利用者の生理用パットが裏返しや折れ曲がってあてられていた。

- ・外出のために持参した療育手帳を折れ曲がったまま持ち帰ってきた。

対応： 2件ともに、それぞれ担当した職員は当該の内容に関して対応した記憶はあるものの、最後の状態までは確認していないことから、親御さんの苦情に対して明確な回答ができなかった事案である。最後まで確認していない不手際についてお詫びし、今後、同様のことのないよう職員に周知することで一定の理解を得ることができた。

今後は、一連の支援の最後まで確認することを徹底するよう指導するとともに、支援者として支援に携わる責任の重要性を理解することを職員間で確認した。

評価： 両事案ともに一連の支援を行ってはいいるが、最後の状態までの確認は行っていないことにより、なぜ、そうなったのかを説明することができないケースであった。

支援者にとっては、通常の業務の中の何気ない支援の一コマではあるが、当事者や家族にとっては、その結果の如何によって大きな不信感に繋がることを認識して、支援にあたる必要性のあることを再認識する申し立てであった。

2. 虐待報告

当年度中に虐待と認定すべき事案は発生していません。

しかし、不適切な支援についてはケース会議や虐待の芽チェックにより具体的な改善方法を職員間で確認しているが、特定の職員には改善がみられない状況がある。

- ・権利擁護委員会の開催状況

2019年6月19日、11月20日、2020年2月27日 年3回開催

昨年度より、利用者も参加することにより当事者の立場からの意見を反映した議論ができるようになった。利用者の立場から不適切な支援についての意見がでるようになり、親や職員にとってもあらたな気づきの機会にもなっている。

3. 事故・ヒヤリ報告

- ・利用者間のトラブルによる事故（ケガ） 2件
- ・利用者の飛び出し 1件
- ・利用者の所在不明 4件
- ・通所バスの乗車漏れ 1件
- ・作業内容のミス 1件

内容：・利用者間のトラブルによるケガについては、2件とも職員が目を離している間に生じたものであり、日常の関係性や行動からトラブルや事故に発展する可能性を予測できていないこと

が原因であった。

- ・所在不明については、4件とも発生の状況は異なっているが、職員の注意が他に注がれている間に生じた案件であり、個々の利用者の日常の行動を踏まえた予防的支援を励行することを怠っていた。

評価： ほとんどの事案が職員のケアレスミスが原因であり、慎重な対応と具体的な改善を指導しているが、現場の職員間での連携や職員間の声掛けが不足しているようにも感じる。

【社会福祉充実計画】

- ・平成 29 年度～平成 33 年度の社会福祉充実計画について、当年度は職員の職場定着と資質向上を目的とした法人内研修として特別研修として外部講師を招き、ちいろば園、グループホームそれぞれの職員を対象にコミュニケーションスキル研修を 2 回に分けて実行した。
また、本年はちいろば園より土橋、グループホームより米田を対象にキャリアコンサルタントによるキャリアドックをそれぞれ 2 回実施した。

【施設設備整備ならびに改修等】

- ・ Windows7 のサポート終了に伴うパソコン、サーバーの入れ替え 6 月
- ・ 大型テレビの設置（食堂） 1 月

当年度は、パソコン、サーバーの設備整備と食堂への大型テレビの整備以外の設備整備や大きな修繕はありません。